

～ ABCグループCSR「阪神淡路大震災25年企画」～

『阪神淡路大震災25年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ』が  
「2020 デジタルアーカイブ産業賞」受賞！

ABCグループCSRの一環として2019年度から展開している「災害アーカイブ公開プロジェクト」が、7月31日、「デジタルアーカイブ推進コンソーシアム（DAPCON）」主催の「デジタルアーカイブ産業賞」の「貢献賞」を受賞しました。

記

◇「2020 デジタルアーカイブ産業賞」一部門「貢献賞」受賞概要

◆受賞対象：「阪神淡路大震災25年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」  
朝日放送グループホールディングス株式会社

◆受賞理由：放送局がビジネスを直接的には考慮せず、社会課題に取り組んだ意義ある仕事。放送法における電波特権の条件である災害報道の意義を広くとらえた仕事として、企業の社会貢献事業的側面を評価したい。

◇「阪神淡路大震災25年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」HP

[https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/)

<備考>

【デジタルアーカイブ推進コンソーシアム（DAPCON）とは】（公式HPより）

<https://dapcon.jp/about/>

我が国における産業振興、学術分野の発展、教育の向上、日常生活の充実等国民生活のあらゆる場面において、デジタルコンテンツの開発・活用は今後の発展のためには不可欠の要因であり、それを支えるインフラとしてのデジタルアーカイブの整備・活用は我が国にとって喫緊の課題となっています。しかし、欧米には言うに及ばず、中国、韓国などのアジア主要国と比べても、我が国におけるデジタルアーカイブ整備は緒についたばかりであり、その促進に向けた急速な取り組みが必要となっています。こうした状況を受けて、デジタルコンテンツの流通・利用とそれを支えるデジタルアーカイブの構築に関わる諸団体が連携し、その促進のための共通の課題解決に向けて取り組むためにデジタルアーカイブ推進コンソーシアム（DAPCON）が2017年4月に発足いたしました。

【デジタルアーカイブ推進について（青柳正規会長）より】（公式HPより）

デジタルアーカイブというと博物館や図書館の収蔵庫に大切にしまわれた文化財の保存と公開という狭い分野の印象を持たれがちですが、本来は、それぞれの時代の最新の技術を用いて、最新の情報を記録し、次世代へ伝えることで、ビジネスや外交交渉を有利に進め、教育水準を高め、コミュニティの維持発展・文化アイデンティティの醸成を助けるものであり、未来への基盤づくりなのです。

～ ABCグループCSR「阪神淡路大震災25年企画」～

『「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」の取り組みと公開』が  
「第46回 放送文化基金賞 個人・グループ部門 放送文化」を受賞！

ABCグループCSRの一環として2019年度から当社ホームページ上で展開している「阪神淡路大震災25年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」の取り組みと公開が、「第46回 放送文化基金賞 個人・グループ部門 放送文化」を受賞しました。

記

◇「第46回 放送文化基金賞 個人・グループ 放送文化」受賞概要

- ◆受賞者：「阪神淡路大震災アーカイブプロジェクト」朝日放送テレビ株式会社
- ◆業績：「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」の取り組みと公開
- ◆業績内容・選考理由：

阪神・淡路大震災から4半世紀がたち、被災経験や教訓の風化が急速に進んでいる。朝日放送グループでは、未来の「防災・減災」に活かしてもらおうと、当時のインタビューや撮影した風景など約2千件、38時間にのぼる映像アーカイブをWEBサイトで公開。また、被災地の地図と連動させ、撮影日時、場所で動画の検索もできる。公開にあたっては、震災経験のない若い世代に映像を視聴してもらって意見を聞くとともに、有識者らと研究会を開催し、ほとんどモザイクなしの映像で公開に踏み切ったという。阪神・淡路大震災に関する放送局制作の映像アーカイブはこれまでになく、震災を後世に語り継ぐ上で貴重な資料となっている。

◇「阪神淡路大震災25年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」HP

[https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/)

<備考>

【第46回「放送文化基金賞」表彰対象について】(公式HPより)

<https://www.hbf.or.jp/>

放送文化基金賞は、過去1年間(2019年4月～2020年3月)の放送の中から選ばれた、優れたテレビ、ラジオ番組や個人・グループに毎年贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、ケーブルテレビなどから、全部で277件の応募、推薦がありました。5月末から約2か月にわたる厳正な審査の結果、テレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの4つの番組部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16番組と、演技賞や出演者賞など個人6件、さらに個人・グループ部門の放送文化、放送技術で7件の受賞が決まりました。

以上

**「震災アーカイブプロジェクト」**  
**2020年日本民間放送連盟賞**  
**特別表彰部門の〈放送と公共性〉で優秀賞を受賞！**

朝日放送グループ CSR の一環として 2019 年度から当社ホームページ上で展開している「震災アーカイブプロジェクト」が、2020 年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門の〈放送と公共性〉で優秀賞を受賞しました。

また、朝日放送テレビ制作の番組「M-1 アナザーストーリー ～漫才人生、果てなき道～」(2020 年 1 月 11 日放送)と「笑顔の村」(2019 年 11 月 15 日放送)が、番組部門の〈テレビエンターテインメント番組〉〈テレビ報道番組〉でそれぞれ優秀賞を受賞しました。

記

◇「2020 年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門の〈放送と公共性〉」受賞概要

◆受賞者：「震災アーカイブプロジェクト」朝日放送テレビ株式会社

◆内容：阪神淡路大震災は、発生直後からテレビがつぶさに記録した都市型震災。しかし四半世紀が経ち、被災経験や教訓の風化が急速に進んでいる。そこで朝日放送グループでは、未来の「防災・減災」に活かしてもらおうと、撮影した映像アーカイブを WEB サイトで公開するプロジェクトを立ち上げた。しかしそこには、被災者の顔などの映像をモザイクなしで公開していいのかという壁があった。「災害・被災」をよりリアルに伝えるため、この問題について震災経験のない世代に意見調査を実施し、肖像権等に詳しい有識者とともに研究会を開催。その結果、原則モザイクなしでの公開に踏み切った。阪神淡路大震災の記録映像を、放送局としてかつてない規模で公開したプロジェクトとなった。

◇「阪神淡路大震災 25 年 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」HP

[https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/)

<備考>

【日本民間放送連盟賞とは】(公式 HP より)

<https://j-ba.or.jp/category/aboutus/jba101979>

日本民間放送連盟賞(連盟賞、英文名:JBA Awards)は、質の高い番組がより多く制作・放送されることを促すとともに、CM制作や技術開発の質的向上と、放送による社会貢献活動等のより一層の発展を図ることを目的に、日本民間放送連盟(民放連)が1953(昭和28)年に創設した賞です。

部門・種目別に審査を行い、優秀な成績と認められる作品および民放の信用と権威を高めたと認められる活動を表彰します。



## 「阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」 アーカイブサイト&書籍

朝日放送グループホールディングス株式会社（本社：大阪市福島区、代表取締役社長：沖中 進）は、グループ CSR 活動の一環として、阪神淡路大震災発生から 25 年を迎えた 2020 年 1 月より、当社グループが保有する震災映像を、防災・減災のために広く活用していただけるよう多様な方法で一般公開しています。

この度、「阪神淡路大震災 取材アーカイブプロジェクト」のウェブサイト「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」([https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/))、ならびに 20 年 12 月に出版した書籍「スマホで見る阪神淡路大震災 災害映像がつむぐ未来への教訓」(著者：朝日放送テレビ 木戸崇之 出版：西日本出版社)が、「2021 年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

(■受賞番号 21G151379：<https://www.g-mark.org/award/describe/52776>)

今後も、防災・減災情報の未来への伝承とより有効で多様な社会共有の方法を考え、当プロジェクトを進めて参ります。



書籍「スマホで見る阪神淡路大震災」  
(西日本出版社)

阪神淡路大震災アーカイブ HP

### グッドデザイン賞 評価者コメント

「放送局内でしか閲覧できなかった膨大な数の取材映像を、位置関係や会話テキストを付加したデータベースとしてウェブサイト公開することで、有用かつ貴重な情報へと変貌させている。また、公開された映像はどれも演出などが施されていない編集前の素材であるため、当時の状況をドキュメンタリーとして未来へ伝承できる点も効果的である。アーカイブを長期間維持していく取り組みとして、書籍と組み合わせるプロジェクトを展開するなど、まさに放送局だからこそできる情報共有のあり方を示したと言える。」

**朝日放送グループの CSR について** <https://corp.asahi.co.jp/ja/csr/index.html>

朝日放送グループでは、今年度、近年の大規模自然災害の頻発を受け、グループ CSR 基本方針「行動指針」のひとつ◆明日の暮らしへ・・・『地球環境と人の営みを大切に、命と暮らしを守る情報を届けます』により注力し、自然災害や防災・減災情報につながる情報発信と取り組みを行っています。

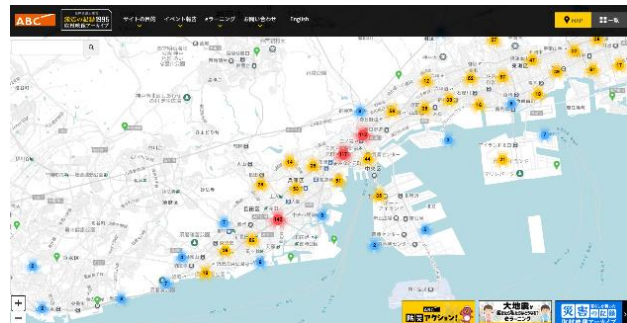
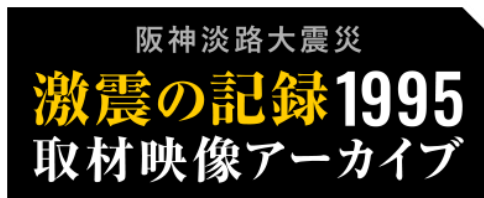
以上

「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」が  
「デジタルアーカイブ学会 第6回学会賞 実践賞」を受賞！

朝日放送グループホールディングス株式会社（本社：大阪市福島区、社長執行役員：西出将之）は、サステナビリティへの取り組みの一環として、阪神淡路大震災発生から25年を迎えた2020年1月より、当社グループが保有する震災映像を、防災・減災のために広く活用していただけるよう多様な方法で一般公開しています。この度、「阪神淡路大震災 取材アーカイブプロジェクト」のウェブサイト「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」([https://www.asahi.co.jp/hanshin\\_awaji-1995/](https://www.asahi.co.jp/hanshin_awaji-1995/))が「デジタルアーカイブ学会 第6回学会賞 実践賞」を受賞致しました。今後も、防災・減災情報の未来への伝承とより有効で多様な社会共有の方法を考え、命と暮らしを守る情報発信や取り組みを進めてまいります。

◇「デジタルアーカイブ学会 第6回学会賞 実践賞」受賞概要

◆受賞者：「阪神淡路大震災 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」



◆授賞理由：

2025年1月に阪神淡路大震災から30年を迎える。本映像アーカイブは、過去の災害取材の過程で蓄積された膨大な映像資料を対象とし、社会的インパクトを与えた意義は大きい。またその公開にあたって、デジタルアーカイブ学会の肖像権ガイドラインを参照しながら運用したことなど、難しいといわれる映像資料（特に報道資料）のデジタルアーカイブの先進的事例としても多く言及されている。また、報道機関を含む言論・産業界が、自らの知的資産をアーカイブとして活用しようとする事例である、という点でも高く評価できる。

この試みをきっかけに、東日本大震災を含む多くの災害映像が適切に公開されていくことを期待して、実践賞を授与する。